

小池昌代

詩人

○辺見庸「純粹な幸福」(毎日新聞出版)

混沌とした日本社会を体現したようなこの一冊を何回も読み返さずにはいられません

「無数のしわをききまされた顔と肝門たちの記憶にかこまれる、純粹な幸福の無意識。新しい過激な老いの形。

○秋草俊一郎 戸塚学、奥彩子、福田美雪、山辺弦編「世界文学アンソロジー——いまからはじめよ」(三省堂)

書名は地味だが、今までにない斬新なアンソロジー。読み切れる詩や短編が入っている。詩の新訳が素晴らしい。

イランの詩人フォルグ・フアッロフザードを知ったのも収穫だった。「ラムも含め、発見に満ちている。

○カロン・エムケ「なぜならそれは言葉にできるから——証言する」(公正義社)

「浅井晶子訳、みすず書房」暴力や弾圧を経験した人間が口をつぐみ、沈黙を選ぶのはなぜか。その境界を突破し、ものを語る意味は。本書の魅力は、柔らかい思考、痛みを自らのものとして飛躍する言葉には、激的な詩的示唆が感じられる。

天笠啓祐

ジャーナリスト

このころ子どもたちの心と体の問題で、気になる出来事が多い。今の社会の矛盾を、小さな体で一身に背負わせているように仕方がない。

川崎三彦「虐待死——なせ起せるのか、どう防ぐか」(岩波新書)は、虐待によって子どもの命が奪われていくこと、日常的に取り組んでいる著者が書いた本である。

眼をむけたくなる悲惨なニュースが続く。かけがえのない未来を失ってしまう出来事が続く。何故なんだ、その背景は。そのことを書きたいの本である。

他方、アレクシーや発達障害の子どもたちが確実に増えている。子どもを健康を脅かしているのは何か。もし自分の子どもがそうなら、どうしたらよいか。ゼン・ハニーク「STOPPABLE」(あきあめ)

「健康」を取り戻し、アメリカの「食」を動かした母親たちの軌跡(松田紗奈訳、現代書館)は、それを取り組んだ母親の物語である。しかも社会運動として、その取り組みは広がり、著者はいまや「米国を変えた母親」として言われるようになった。

同子どもでも、ドノヴァン・ホーン「モービー・ダック」(村上光彦・横濱一樹訳)

「この書房が描いた世界は、幼児用おもちゃである。著者は、海に流出した大量のプラスチック製の幼児用おもちゃの行方を、職を投げうって追跡を始める。その変わり者の冒険の物語である。いまマインクロプラスティックの汚染が地球規模の問題になっているが、環境問題にこのように肉薄できるのだと、感心した。

中国の最もセンシティブな現場で取材を試みた、朝日新聞元中国総局員のルボ、警察による厳しい取り調べの証言は、大迫力で一気読みさせる。一方、「最後の中国特派員」とあるように、弾圧強化の中でこうした取材手法も難しくなっているとの指摘が重なる。

「現代中国と立憲主義」(東方書局) 政治が法を凌駕する「人治」が横行し、人権侵害が日常である中国において、立憲主義・民主主義・人権は力を持ちうるのか。中国政治と法理論の論を示しつつも、厳しい政治状況の中を鍛えられた思

想に、一縷の望みを見る。小笠原放幸「台湾総統選挙」(免洋書房) データと実地調査を組み合わせた独自の手法で台湾の選挙を分析し、情勢を誰よりも正しく予測して「神級学者」と称される著者が、総統選を前に執念で完成させた、民主化以後の台湾総統選の全記録。1月の選挙情勢分析のガイドブックとして必携!

1)ウラジミール・アレクサンドロフ「かくしてモスクワの夜はつづられ、ジャズはトルコにもたらされた——二つの帝国を渡り歩いた黒人興行師フレデリックの生涯」(竹田田訳、沼野充義解説、白水社)

2)ヨネ・ノグチ「詩集 境界と幽界」(星野文子・堀まどか、羽田美也子訳、鳥井俊介監修、彩流社)

3)松尾文夫「ニクソンのアメリカーアメリカ第一主義の起源」(西山隆行解説、岩波現代文庫)

去る10月19日、わたしはこんなツイートをした。「また今年度ベスト3選びにアレクサンドロフ」かくしてモスクワの夜はつづられ、ジャズはトルコにもたらされた」ヨネ・

巽孝之

アメリカ文学

ノグチ「詩集 境界と幽界」松尾文夫「ニクソンのアメリカ」増補版と立て続けに出たいま、もう決まったようなものである。

以後一ヶ月半を経て、右記を凌ぐ話題作が出るか出ると固唾を呑んでいたが、結局このセレクションは微動に

しなかった。何しろアレクサンドロフの評伝は南北戦争後のアメリカはミシシッピ州に生を受けながら帝政期ロシアはモスクワに渡り大成する黒人興行師の生涯をスリリングに描き出し、野口米次郎が明治初期に渡来して出版した第一英語詩集の邦訳が詳細な訳注とともにノグチ研究の權威・鳥井氏の丁寧な序文が付いて本邦初訳され、かつて共同通信社ワシントン支局長を務めながら今年急逝した稀有の国際ジャーナリストの代表作(1972年初版)がトランプとニクソンの比較研究を含む豪華な増補付きで刊行されたのだから。

新城 郁夫 沖繩/日本文学

「ジュディス・パトラー」分かれ道——ユダヤ性とシオニズム批判(大橋洋一・岸まどか訳、青土社)

レイナスへの批判的応答を踏まえながら、以前とは異

巽孝之

アメリカ文学

「また今年度ベスト3選びにアレクサンドロフ」かくしてモスクワの夜はつづられ、ジャズはトルコにもたらされた」ヨネ・

を踏まえながら、以前とは異

を踏まえながら、以前とは異

を踏まえながら、以前とは異

を踏まえながら、以前とは異

を踏まえながら、以前とは異

を踏まえながら、以前とは異

中村一成

●四六判 313頁 2500円

映画でみる移民／難民

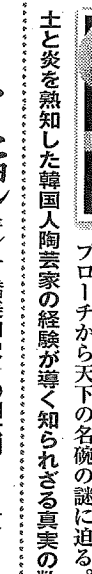
「太陽の男たち」ルアール級がききラレット&ロースとして、私たちは愛に帰る。ライフ・スビューティアル・ルジャール「マンネン」ゴ移民の記憶「憎しむ他戦争、差別、貧困、格差、植民地主義……直面する現実を前に奮闘し続ける映画人たちがいる。日本社会の課題をも照射する映画評論集。世界を変える映画20本。



趙誠主著／多胡吉郎訳 ●四六判 197頁 2500円

井戸茶碗の真実

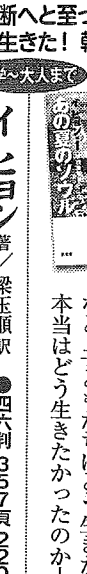
日本では国宝ともなった茶碗の王者は、原産地・朝鮮ではどんな器だったのか? 発掘調査の科学的解析と資料研究を通し、その製作時期、場所、用途など、多角的なアプローチから天下の名碗の謎に迫る。士と炎を熟知した韓国人陶芸家の経験が導く知られざる真実の数々!



イヒヨン著／下橋美和訳 ●四六判 309頁 2200円

あの夏のソウル

「だからってなんにも選ばずにはいられないだろ?」 「解放そして朝鮮戦争下、元親日派の判事の息子や転向した革命家の娘など、子どもたちはどう生きたのか。本当はどう生きたかったのか——



イヒヨン著／梁玉順訳 ●四六判 357頁 2200円

1945, 鉄原

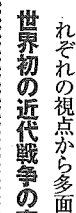
8月15日、日本の支配からの解放の日、朝鮮半島で人々は何を夢見たのか。分断へと歴史の歯車が軋む中、38度線近くの街・鉄原で、若者たちの夢が走り出す!

金重明

●四六判 313頁 2500円

小説日清

日本軍は朝鮮王を軟弱東洋農民を虐殺し、朝への布石とした。朝鮮に日清戦争を朝鮮れぞれの視点から多面世界初の近代戦争の



確田のぼる

団結すれば 啄木はい

地図の上朝鮮国に



朴春日

古代朝鮮

池明観



韓国から

韓国・危機の15 はいかにたた

19年下半期読書アンケート

月刊 22 8円(税) 茶吉茶 て 文 刊

純粹な幸福

辺見庸著

2012年の高見順賞の受賞スピーチで辺見は、詩人は「命者」と語っていた。亡命などまったく考えたこともない者どもが、いま、この国では唾棄すべき国家を振りかざして、「命を考えることさえ許さぬ顔つきでのさばっている」。

詩人である辺見の息苦しさは深まり、絶望はさらに肥大しているだろう。しかし、辺見と私の共著のタイトルのように『絶望という抵抗』もある。そして、魯迅の指摘を待つまでもなく、この国に欠けているのは希望ではなく絶望なのだ。

『純粹な幸福』というシニカルな書名は絶望という土壇場のユーモアに読者を誘い込む辺見の底意を示している。悪意と言ってもいい。だが、それが不思議な魅力を与えているのである。

たこやば冒頭の詩の「おばあさん」の結語。「おばあさんから引越そうとしてくるのです、おばあさん。」



へんみ・よう 1944年生まれ。作家、詩人。元共同通信記者。小説「自動起床装置」で芥川賞、詩集「眼の海」で高見順賞

肉声が届かない社会への劇薬

あるいは「声」という詩の「声は無機物ではない。露骨なほどの有機物である」や「じぶんの声はどこにも届いていないのに、他人の声ばかりが聞こえる。そんな時代に生きていけないか」に私は身震いするほど共感する。

また、IVの「純粹な幸福」の「一番う松林」では、地域から発給される「良民証」なるものが出てくる。

辺見や私には、まちがっても発給されず、発給されそうになったら、嫌悪して突き返すだろうシロモノである。

辺見はしばしば「体を張る」とか、ガチでぶつかるといふ。ガチンコ勝負の簡略語だろうが、辺見の言葉には肉体があり、また、辺見は肉声を欲する。

意外に韓流ドラマが好きな私は、しかし日本語に吹き替えになったテレビは見ない。声はかけがえないものであり、その役者固有のものだからである。韓流に限らず、洋画でも字幕でしか見ないが、特にこの国は、いま、吹き替え文化を疑わない者たちが大手を振って歩いている。この本はそれに対する強烈な劇薬である。

(毎日新聞出版 2200円)

評 佐高信(評論家)

KEIO PLAZA HOTEL
SAPPORO
INFORMATION

京王プラザホテル札幌
インフォメーション

12

December 2019

KEIO PLAZA HOTEL SAPPORO
CHRISTMAS ENTERTAINMENTS
2019

外山啓介 クリスマスコンサート

12/22
Sun

地元・札幌で恒例となり、今年で12回目を迎えるクリスマスコンサート。繊細さに加えて深みを増した美しい音色で綴られる名曲の数々とともに、とっておきのクリスマスをお過ごしください。

■日時: 12月22日(日) 12:00~14:30 ■会場: 2F エミネンスホール

■料金:

大人 ランチコース付 6,500円

小学生 ワンプレートランチ付 4,000円

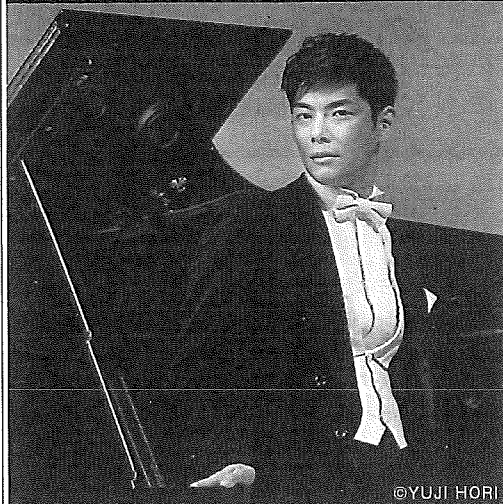
※未就学児童のご入場はご遠慮いただいております。

チケット好評販売中

チケットはクレジットカード決済によるWEB販売で承ります。
チケット郵送 別途送料450円



(WEB予約)



©YUJI HORII

1F ブッフェ&パーティコート

「グラスシーズンズ」ランチブッフェ

12/1(日)~12/31(火)

■営業時間(平日)11:30~14:30(土・日・祝)11:30~15:00

※12月22日(日)は営業時間を11:30~14:30に変更させていただきます。

※営業終了時間の30分前をラストオーダーとさせていただきます。